

顧客仕様に対応した生産体制

新晃工業株式会社

技術本部第一テクニカル
センター研究開発部長 **村田 寧氏**



皆様、明けましておめでとございます。新年の幕開けとともに、心からお祝い申し上げます。

二〇二四年は、「酷暑」と言われ異常な暑さが続き多くの地域で熱中症や農作物の被害が発生しました。気候変動の影響がますます顕著になり、熱中症対策やエネルギーの効率的な利用など、環境対策が重要な年でした。技術的には人工知能(AI)、ロボット工学、クラウドコンピューティングなどのDX技術の活用により多くの業界や生活の様々な領域での変革が進んでいます。

当社においては、ステークホルダーの皆様は当社グループの事業活動や経営戦略のほか、長期ビジョンおよびその実現を見据えた中期経営計画などの財務情報、サステナビリティに関する取り組みなどをご理解いただくため統合報告書を初めて発行しました。

また、この統合報告書はSINKOグループの社員にとって当グループの目指す方向の指標となることも目的のひとつとなっております。全グループ社員が一丸となることでより強い力を発揮すると考えます。技術的な側面では神奈川県工業の敷地内に総合実験棟「SINKO AIR DEVELOPMENT LAB (通称・エスラボ)」を建設し、昨年の六月から一部の運用を開始しました。



SINKOダイレク
クト QRコード

この施設ではさまざまな規格に準拠した最新計測設備を完備しています。既存の研究開発施設「SINKO TECHNICAL CENTER」に加え、より高度な空調試験が可能となり空調機の研究開発、品質管理の高度化・効率化を目指します。

二〇二五年一月からは本格稼働が始まり、当社が掲げるポートフォリオ戦略の一翼を担うデータセンター空調や個別空調などの成長領域を支える研究施設として活用してまいります。

二〇二〇年よりスタートさせた「SIMA (SINKO Innovative Manufacturing of AHU) プロジェクト」は部門ごとに分散していたデータを集約し、高度なノウハウをデジタル化することで業務プロセスの効率化と生産性向上を図る仕組みで、設計、製造、営業、サービスの四つのフェーズで構成されます。

展開しており、顧客目線に立った販促活動とサービスの充実を図っています。SIMAはデジタル解析技術との親和性が高く、新たな製品開発や工程設計を実現する「SSA (SINKO Scalable Architectural e)」へと進化しています。

現在、設計では3D CADシステムが段階的に実装フェーズに入っており、設計段階で細かな要求仕様まで組み込んだデータを作成して、製造につなげています。製造では個々の組立負荷まで反映した生産計画が可能な「生産予約システム」の運用が始まりました。生産繁忙期の平準化や人員の最適配置が可能となり、生産性を向上させています。

営業とサービスの面で、ユーザーが当社の製品データベースから図面検索ができる「SINKOダイレクト」や製品銘板のQRコードからメンテナンス情報にアクセスできる「SINKOかざしてメンテ」を開発段階での試作工数削減や実験パターンを最適化することで開発を円滑に進め、基幹部品性能No.1を追求すると同時に、つくりやすい部品と工程分析、各種加工機とのデータ連携により様々な顧客仕様に対応した生産体制を構築します。冒頭に述べた気候変動に対し、空調機メーカーである当社だからこそできることがあると考えています。SIMAと解析技術を両輪にして、再生可能エネルギーや未利用エネルギー活用に関する研究開発に注力していく所存です。地球環境とステークホルダーにとって明るい未来を切り開いてまいります。本年もよろしくお願いたします。